

2016年2月1日

札チャレラジオ通信 第4回

加納：三角山放送局をお聞きの皆さん、こんにちは。1月から始めました札チャレラジオ通信の時間がやってきました。私はパーソナリティをやらせていただいております NPO 法人札幌チャレンジドの加納と申します。よろしくお願いします。

この札チャレラジオ通信は、自立を目指す障害のある人が「IT でマザル、ハタラク、拓きあう社会を創りたい！」そんな思いで活動している NPO 法人札幌チャレンジドの活動内容を毎週月曜日、この時間にお伝えしております。

2016年1年間限定ということで始まりまして、今日は4回目ということでございます。

1回目から3回目までは札幌チャレンジドにグループがありまして、パソコン講習グループ、就労支援グループ、就労移行支援グループと三つのグループのスタッフが来まして札幌チャレンジドの活動の概要をお伝えしました。

今日はスタッフが来る4回目ということで、札幌チャレンジドにはもう一つグループがあり、札幌チャレンジドの全般的なことをみている総務グループというのがありまして、その総務グループのリーダーの岡野さんに今日は来ていただいております。

加納：岡野さん、こんにちは。

岡野：こんにちは。

加納：はい、よろしくお願いします。

岡野：よろしくお願いします。

加納：岡野さんは毎回このスタジオに来ていただいて、実は写真班をやっていただいていた。札チャレのフェイスブックには毎回写真を載せており、岡野さんが放送が始まったらすぐにフェイスブックにアップをしてくださっていたんですが、今日はお話をする当事者として、よろしくお願いします。

岡野：こちらこそ、よろしくお願いします。

加納：では早速ですが、まずは岡野さんに自己紹介がてら、どのような仕事を担当されているか教えてください。

岡野：三角山ラジオをお聞きの皆さん、こんにちは。札幌チャレンジドで総務兼事務局長をしています岡野といいます。札幌チャレンジドには 2012 年の 4 月から事務局員になり、今年、5 年目を迎えます。

仕事内容は総務全般ということで、札幌チャレンジドで働いている皆さんや、ボランティアさん、そのような方々のいろいろな後方支援を中心におこなっています。

例えば、就労グループでいきますと、働いているチャレンジドの方々の契約関係とか、給与明細、交通費の支給などです。

移行グループでは、就職を目指すメンバーの方々への講習で「組織活動とは」とか履歴書の書き方だとかの講習もしております。

それ以外にも、全般的なことでは、札チャレではドリップのコーヒーが飲めるんですね。

加納：そうですね。

岡野：そのコーヒー1 杯が 30 円、またはチケットを販売してまして、そのチケットを印刷して売ったりとかですね、また社内での「ごみの分別」を担当したりとか、諸々の仕事の担当をさせていただいています。

加納：そうですね。まさに縁の下の力持ちっていうか、裏方のところで札チャレの業務全般にわたって仕事をしていただいておりますということですね。

岡野：はい、そうですね。

加納：札幌チャレンジドにはいろんな縁の下の力持ちっていう仕事があるのですが、やはり一番にお伝えしなければいけない力持ちは「札チャレボランティア」という存在があるんですけど、札チャレのボランティアさんにはどんなボランティアがあるのか、岡野さん教えてください。

岡野：札チャレも 15 年経過しましたが、この 15 年経過できたっていうのもやはりいろいろなボランティアさんのお力があつたからじゃないかなと思っています。

特に設立当時のパソコンに関するパソコンボランティアさん。現在では札チャレのパソコンボランティアさんや、札幌市 IT サポートセンターの「市ボラ」といっていますけども、そのようなパソコンボランティアさんです。

また、毎月「札チャレ通信」という情報誌を発行していますが、この印刷ですとか発送業務を手伝っていただいています。ほかには冬になると氷割りボランティアさんとかですね。

加納：パソコンボランティア団体が氷割りをするのですか？

岡野：ちょうど交差点のところなんかかけっこう雪山になってしまい、札チャレを利用している方が、通所で来るときに歩きにくい状況になるところがあるものですから、つるはしですとかスコップを持って近くの交差点に行ってお氷割りをしています。

加納：私も岡野さんも実際に自分でやっていたこともありますが、なかなか大変なんですよ。結構汗かいて、ここはなんとかボランティアさんの力をお借りしたいってことで氷割りボランティアさんが生まれたんですね。

岡野：ところが最近、あまり活躍の場がないといいますが、今年は雪がちょっと少ないせいもあるのですが、除雪をきれいにさせていただき、特に最近はそういう印象を受けています。交差点も一時すこしは山になるのですが、今朝もそうですが、きれいに削っていただいて、ただ砂をまくだけでかけっこう歩きやすくなるような感じになっていますね。

加納：そうですね。除雪の作業をされている方がひょっとしたら心配りして、そういうところに雪の山が残らないように削っていただいているのかもしれないですね。

岡野：非常に嬉しいですね。

加納：ありがたいですね。

岡野：あとそれ以外にも、最近は大学のサークルの方がボランティア活動をされていて、その中で札チャレの活動を支援していただいているというケースもあります。

加納：どっか特定の大学の方と一緒にやっているんですか。

岡野：そうですね。一昨年からですか、北星学園大学のソーシャルビジネスサークル Plus+（プラスプラス）の高橋さんという男性がリーダーをされているグループですが、その方々が札チャレでボランティアをしたいというお申し出がありました。昨年は、イオン黄色いレシートキャンペーンということで、毎月 11 日イオンさんのレシートが黄色くなるんです。

加納：ありますね。

岡野：その黄色いレシートを登録している団体、グループの箱に入れていただくと、入れていただいたレシートの1%が登録団体に社会貢献費用としてイオンさんからご寄付いただけるのです。

そのために声掛けというのをを行うのですが、札幌チャレンジドは東区にあるイオン元町店に登録してまして、レジから出てきた所に箱を持って、「今日は黄色いレシートキャンペーンの日です、ご協力をお願いします」という声掛けをやるんですね。

加納：なるほど。

岡野：従来は我々事務局員だけでやっていたんですけども、この北星学園大学のソーシャルビジネスサークルPlus+の高橋さんとメンバー数名の方の協力をいただいて、去年は2回、若い学生さんの力を借りて声掛けをしました。

加納：実際に学生さんが並ぶとお客さんの反応とか違いますか。

岡野：違いますね。私のようなかなりの年を取ったおじさんたちが、

加納：おじさんが並んでもね。華がないですね。

岡野：何をやっているのだろうという、そういう見方で見ているんですけど、若い学生の方々が声高らかに「協力お願いします」という声をかけていただくと、本当にどういう活動なの？という、このイオンさんの活動もさることながら、我々札幌チャレンジドの活動などについても聞かれたりして、そのような意味でも結構有意義なボランティア活動かなと思っていますね。

加納：あの黄色いレシート、実際にお客さんが箱に入れてくれますよね、最終的にどのぐらいの金額で、札幌チャレンジドはそれで商品を購入していると思いますが、だいたいどんな感じになっているんですか。

岡野：そうですね、年間トータルで出てくるのですが、確か2月か3月で締まると思うのですが、昨年の実績は約300万円相当のレシートが札幌チャレンジドの箱に投函されました。

加納：300万円分お買い物した積み重ねのレシートが箱に入って、300万円に対して、

岡野：札幌チャレンジドに約3万円の、

加納：3万円。1割、いや1%ですね。

岡野：そうですね。

加納：1%の金額のお買い物かイオンさんでできるということですか。

岡野：そうです。

加納：ちなみに、どんなものを買ったりしているのですか。

岡野：実際に掃除機ですとか、事務用品、特に札チャレでは点字のテプラテープなんかは毎月結構使うので、そういう事務用品を購入させていただいたりしています。

加納：事務所があるとやっぱりいろんな事務用品っていうのが必要になってくるのですね。

岡野：そうですね。

加納：まあまあ、自分たちのお金で普段は買うのですが、そういう物が買える、いただけるとなるとありがたいですね。

岡野：そうですね。しかも3万円となると結構まとめて買うことができますので、非常に助かりますよね。

加納：掃除機買ったりしたときもありましたね。

岡野：はい、掃除機とか電子レンジもありましたね。

加納：電子レンジ。今使っている電子レンジも確かそうですね。

岡野：そうです。ちゃんとテプラでイオンさまからの寄贈品ですってちゃんと貼っています。

加納：そういう意味で、イオンでお買い物をしてくださってレシートを入れてくださった方の積み重ねが、そういう形で我々の本当にありがたく使わせていただいているということですね。

岡野：そうですね。

加納：ありがとうございます。それではちょっと早いですが、ここで岡野さんが今日はCDを持ってきてこれをかけようっていう曲があるようなのでご紹介ください。

岡野：今、話題になっています、「世界に一つだけの花」。

加納：話題になっていますね。

岡野：なっていますね。ただ今回は槇原敬之さん、作詞、作曲者、こちらのほうで聞いていただこうかなと思っています。

加納：では、お聞きください。

加納：三角山放送局をお聞きの皆さん、札幌チャレラジオ通信の放送をしております。

それではここからは後半に入りますが、岡野さんは札幌チャレンジドの全般的なところを担当していただいているのですが、各部門が関わってやっていることの一つに、インターンシップというのがあると思うのですが、そのインターンシップの概要を教えてください。

岡野：そもそもインターンシップというのは、大学生、学生の方が就職する前にいろいろな社会経験をしたり、実際に自分の目指そうという業種に携わってみて、ミスマッチを防ぐというような目的があると思うのですね。

札幌チャレンジドでも従来からこのインターンシップ生の方々の受け入れをやっています。特に継続的に実施している学校では、北星学園大学さんで、社会福祉学部の1年生の方で、大学の社会福祉に入ったけれども、まだ福祉関係を実際に見たことがない、どういう環境で仕事をするのかというのを経験してない、という学生さん向けに1年の夏休みにインターンシップの申し込みがあり、こちらをずっと継続して受け入れをしています。

それ以外の大学では、例えば北海道大学さんとか文教大学さんの作業療法士の方がインターンシップに来ています。また以前では北海学園さんですとか小樽商科大学さんもインターンシップという実績はありますね。

加納：そうですね。札幌チャレンジドも出来て16年になりますけれども、何年目の頃かもう忘れちゃったけど、なんかパラパラと割と早い段階からインターンシップで学生さんを受け入れてくれないかいというようなお話があって、もう我々からしたらこんなに嬉しいことはないわけですよ。だってね、自分たちの活動をこう若い方に知ってもらって嬉しい

くないですか。

岡野：実際の受け入れはほとんど夏休み期間の 1 週間くらいなのですが、ずっと継続してやっていますから、事務局のメンバーも夏休みになるとインターンシップの学生さんが来る、どういう若い方が来られるのかなと、ある程度楽しみにして受け入れ活動をしているようです。

加納：そうですね。実際に各グループの仕事の中に入ってもらうのですよね。

岡野：大きく分けて三つのグループで、就労グループでいくと、私共のところで働くチャレンジドの実際の仕事を体験してもらったり、それと仕事をしているチャレンジドの方々と直接情報交換、交流をしたりというのがインターンシップの方々にすごくインパクトがあるようです。あと移行支援グループの中では、実際の就職のカリキュラムの中に入っていて、実際に受けていただくと。

加納：なるほど。

岡野：どんなものかと。

加納：その学生さんもいずれ 3 年後、4 年後には就職に臨むわけですからね。いい予備トレーニングかもしれませんね。

岡野：、あと講習グループにいけますと、読み上げソフトという視覚障害者向けの方のパソコンソフトで実際の画面周りを全部読み上げるソフトだとか、視覚の方がインターネットが出来たりワードが出来たりと、このようなソフトを実際に体験していただくんですね、そういうソフトのに触れる、自分が体験することが初めての方が多く、このようなアクセシビリティ機能を使って障害のある方がパソコンを使うのだという体験がすごく印象に残って帰られるようです。

加納：そういう意味では割と福祉系の学部学科の方がインターンシップに来られるのですが、とはいっても、大学 1 年とか 2 年だからなかなか障害のある方との接点がなくて、思いだけで来た方が実際に札チャレでいろんな障害の方々だと接するとどんな反応がありますか、なんか強いこういう反応が多いとかありますか。

岡野：そうですね。まず初日のオリエンテーションで「なぜ札チャレに来たのか」というよ

うないろいろ話を聞いたりするのですが、まずやはり、本当に福祉っていうのがどういう現場なのかがわからない、障害のある方とは高校とかで本当にごく一部の方は接点があるような方もいるんですけども、実際にそういう方々と一緒に仕事をするだとか、そういう障害のある方が就職に向けて訓練をするって全然イメージがわからない感じですよ。

加納：そういう意味でいうと、生活介護系のところのほうが逆にイメージしやすいかもしれないですよ。生活面の支援をする、本当に衣食住じゃないですけど、そういうところのお世話っていうことのほうがイメージしやすいかもしれないですけど、就職の支援といった途端にどうなのか、みたいなね。

岡野：そうですね。

加納：そうですね。

岡野：大学でもそうやって就職に向けて、3年生になればそういう就職活動とかいうのがあると思うのですが、実際に福祉系ですとか障害のある方が就職に向けて活動する、どうしたらいいのかっていうのが非常にわかりにくい面があると思うんですよ。

加納：インターンシップはぜひぜひ引き続きやっていきたいと思いますので、もしこの三角山放送局をお聞きの方で、学生さんで、私もインターンシップにいてみたいという方がおられましたら、札幌チャレンジドまで電話をしていただければと思います。

あともう少し時間がありますので、今の学生さんとの関わりにもつながってくるのですが、札幌チャレンジドでは発達障害の、よくいうグレーゾーンていうか、手帳は持っていないんだけど、発達に困難を抱えていてなかなか生きづらさを感じている学生さんたちの支援をしようっていうことで、1年ぐらい前から取り組みを始めたんですけども、その活動を岡野さん、少し教えていただけますか。

岡野：そうですね、ちょうど1年以上前ですか、加納さんといろいろ大学をまわり、発達障がいの方々の就職、卒業後について我々で何か支援できることがないだろうかとかいろいろ活動していました。

そして昨年、札幌学院大学様のキャリア支援課様と、障害に詳しい教授の先生との連携で、この大学の中にいらっしゃる発達障がいの手帳を持ってる方、あるいはまだ手帳を取得されてない方々のインターンシップというのをぜひやりたいという申し入れがありました。

私共も何か支援ができないかと思っていたところだったので、お互いの目的が合い、昨年初めて、従来のインターンシップのような福祉に就職をされたい学生の方のインターンシップではなく、今回の札幌学院大学さんは、ご自身が障がいのある方のインターンシップということになりました。

実際にいろいろな社会と触れ合ってみたいとか、あるいは障害があってもそういう仕事、就職に向けて自分自身どういう力を身に付けたらいいんだろうか、あるいは一般企業だけじゃなくて福祉系、特にこの移行支援とか就労継続支援にも行けるといような選択肢を広げられればと思ってインターンシップを受け入れました。

加納：そうですね。なかなか通常、普通に大学にいる学生さんですから、一般の就職試験に臨んで行こうとするんだけど、グループワークができないとか、なかなか面接とかになったときに自分のことがまったく話せないとかっていった就職試験が何度も続けて落ちていくと結局、行き場を失うというかね、そういう人たちにほかにもこういう行き場があるんだよっていうことを知ってもらってという意味では札チャレに来てもらうって意味はあるでしょうね。

岡野：そうですね。やはり就職枠でも一般就職枠以外に障害者就職枠というのがありまから、いろいろそういうのを活用されるってのも一つかなと思いますね。

加納：そうですね。本当に発達障害のグレーゾーンっていわゆる学生さんの支援っていうのは札チャレだけでなく、全国的にもそういうことを取り組んでいるところも少ないですし、北海道ではまだまだないようなので、札幌チャレンジドが先陣を切ってなんとかしっかりとした形にしていきたいと思っていました。またこのラジオのときにもゲストで実際に札幌学院大学さんにも来ていただく予定になっているんですよ。

岡野：今、お願いをしています。

加納：はい、そんなこともありますんで、今日は本当にそのさわりっていうか概要だけですが、また改めてしっかり時間を取って、大学の中でどんな課題があって、その課題に社会としてどういうふうに向き合っていかなきゃいけないのかっていうようなことを一緒に考えていければなと思います。

そんなことで少しBGMが鳴ってきましたが、今日からラスト2分のBGMはこの曲になりまして、いろいろ諸般の事情がございましてっていうほどでもないですが、ちょっと雰囲気を変えてみました。

今日までの 4 回で札幌チャレンジドの各グループの概要をご説明させていただきました。
聞き逃しちゃったのって方がおられましたら、札幌チャレンジドのホームページで私たちが話している部分だけを抜き出して聞けるようにしております。

第 1 回と第 2 回はもうすでにホームページにアップをされておりますので、ぜひまた、聞き逃した、もうちょっと聞いてみたいわっていう方がおられましたらホームページから聞きたいだければと思います。

お時間のある方は毎週毎週ぜひライブで三角山放送のこのチャンネルに合わせていただい
てお聞きいただきたいと思います。

来週からの予定ですが、来週からは四つのグループそれぞれのことをもう少し詳しくお伝えをしていきたいと思っており、3 回ずつ各グループで実際に活動に携わっている障害のある方ですとか、ボランティアさんですとか、企業の方ですとか 1 人か 2 人お招きして、その方とゆっくりとお話をしながら札幌チャレンジドの活動のことを知っていただきたいと、そんな予定になっておりますので、ぜひ月曜日午後 3 時、三角山放送局にチャンネルを合わせていただければと思います。それではまた来週お会いしましょう。

加納：さようなら。

岡野：さようなら。